

わたしたちの信仰としての神をもって根気強く祈る

聖書：マルコ 11:20-24. ルカ 18:1-8. 啓 8:3-5

- I. マルコ第 11 章 20 節から 24 節で、主イエスは彼の弟子たちに、神のエコノミーにしたがって、神のみこころを遂行するために信仰によって祈るようにと教えました：
- A. 祈る人が神とミングリングされ、神と一になるとき、神は彼の信仰となります。これが、神への信仰を持つことの意味するものです——マルコ 11:22。
  - B. 信仰から出た祈りだけが、神に触れます。信仰がなければ、祈りは効果がありません——23 節。
  - C. 信仰とは、わたしたちが求めたものは受けたと信じることです——24 節：
    - 1. 主の言葉によれば、わたしたちは受けるであろうと信じるのではなく、すでに受けたと信じるべきです。
    - 2. 望むとは、将来のことを期待することを意味します。信じるとは、ある事がすでになされたと考えることを意味します。
    - 3. 信仰とは、神がある事を行なうことができる、あるいは行なうと信じるだけでなく、神がその事をすでに行なったと信じることです。
  - D. マルコ第 11 章 20 節から 24 節の祈りは、権威の祈りです。このような祈りは、神に向けられているのではなく、「この山」に向けられています——23 節：
    - 1. 権威の祈りは、神に何かを行なっていただくように求めることではありません。むしろ、神の権威を行使し、この権威を適用して、問題や取り除かれるべき事柄を対処することです——ゼカリヤ 4:7. マタイ 21:21。
    - 2. 神がわたしたちに委託したことは、彼がすでに命じた事を命じ、また彼がすでに命令した事を命令することです——17:20。
    - 3. 権威の祈りは、わたしたちを妨げているものに去るように告げる祈りです。
    - 4. 召会は、完全な信仰を持ち、疑わないで、わたしたちの行なう事が完全に神のみこころにしたがっているということをはっきりと知ることによって、このような権威の祈りを持つことができます——6:10. 18:19-20。
    - 5. 権威の祈りは、勝利者と大いに関係があります。すべての勝利者は、「この山」に向かって語ることを学ばなければなりません——マルコ 11:23。
- II. ルカ第 18 章 1 節から 8 節において、主イエスは、弟子たちが「絶えず祈るべきであり、また失望しないように」、たとえを話しました——ルカ 18:1：
- A. このたとえの意義は深遠です。わたしたちはここで啓示されている神を認識する必要があります——7-8 節。

- B. 3 節のやもめは、信者たちを表徴しています。ある意味で、キリストにある信者たちは、今の時代ではやもめです。なぜなら、信者たちの夫であるキリストが表面上、彼らと共におられないからです——Ⅱコリント 11:2。
- C. たとえの中のやもめのように（ルカ 18:3）、キリストにある信者たちであるわたしたちには、訴える者である悪魔サタンがいます。この訴える者に関して、わたしたちは神に復讐していただく必要があります：
1. このたとえは、主が表面上、不在の期間に、わたしたちがわたしたちを訴える者から受ける苦難を示しています。
  2. 主が表面上、不在の期間、わたしたちはやもめであり、わたしたちを訴える者は常にわたしたちを悩ませます。
- D. わたしたちを訴える者がわたしたちを迫害している間、わたしたちの神は義でないかのようです。なぜなら、神は、彼の子供たちが不義な迫害を受けるのを許しているからです——Ⅰペテロ 2:20. 3:14, 17. 4:13-16, 19：
1. 何世紀にもわたって、主イエスに誠実に忠信に従う何千何万という人たちが、不義な迫害を受けてきました。今日でさえ、多くの人は、不義な虐待を受けています——啓 2:8-10。
  2. わたしたちの神は介入して裁かず、擁護しないので、義ではないかのようです。この状況のゆえに、主イエスは不義な裁判官を用いて、ご自身の迫害される民のために何も行なわないように見える神を表徴しました——ルカ 18:2-6：
- a. わたしたちの神は、エステル記が示しているように、ご自身を隠す神です（イザヤ 45:15）。
  - b. わたしたちが認識する必要があるのは、わたしたちが仕えている全能の遍在する神が、ご自身を隠しているということです。特に、彼がわたしたちを助けている時はそうです——ヨハネ 14:26. ローマ 8:26。
  - c. わたしたちは彼を見ることができません。また、一見すると彼は何も行なっていないかのようです。実は、隠された方法で、彼はわたしたちのために多くの事を行なっています—— 28, 34 節. エステル 4:14。
- E. このたとえのやもめは、不義な裁判官の所に来て、彼女を訴える者に対する復讐を彼に求め続けました。わたしたちはこの復讐を求めてしつこく（根気強く）祈るべきであり、失望するべきではありません——ルカ 18:1, 3：
1. わたしたちの夫が表面上、不在で、わたしたちが地上にやもめとして残されている時、一時的に、わたしたちの神は不義な裁判官であるかのようです—— 6 節。
  2. 神は不義であるかのようですが、わたしたちは依然として彼に訴え、しつこく（根気強く）祈り、彼を何度も何度も煩わさなければなりません。それは、神が「日夜ご自身に叫び求める」選ばれた者の復讐を速やかに

遂行するためです—— 7-8 節前半。

F. 啓示録第 8 章 5 節は、啓示録第 6 章 9 節から 11 節とルカ第 18 章 7 節から 8 節とに対する答えを暗示しています：

1. 啓示録第 8 章 3 節から 4 節における聖徒たちの祈りは、神のエコノミーに反対する地に対する裁きを求めるものであるに違いありません。
2. 地に対する神の裁きは、すなわち、地に火を投げることは、香としてのキリストを伴う聖徒たちの祈りに対する答えです——啓 8:3-5。

G. 「人の子が来る時、地上に信仰を見いだすであろうか？」——ルカ 18:8 後半：

1. 「信仰」と訳されたギリシャ語は、文字どおりには、「その信仰」を意味します。これは、やもめの信仰のような、わたしたちのしつこい（根気強い）祈りのための、根気強い信仰を示します。
2. わたしたちがそれを通して救われた信仰は、初期の段階の信仰です。わたしたちをキリストとの命の結合の中へともたらした信仰は、結び付ける信仰、すなわち、わたしたちが三一の神と絶えず接触することを通してわたしたちの中へと入って来る信仰です。それは、わたしたちが神の御子によって生きるためです——ローマ 1:17. ガラテヤ 2:20. ヨハネ 14:19。
3. 結び付ける信仰は、キリストが勝利のうちに再来される時にキリストにまみえるための勝利者に対する神聖な要求です——ルカ 18:8 後半：
  - a. 結び付ける信仰は、わたしたちの中で行動する三一の神であり、わたしたちを彼の計り知れない豊富に結び付けます——エペソ 3:8。
  - b. 結び付ける信仰は、自分自身に信頼しない信者たちの信仰です。むしろ、彼らの信頼は神にあります——Ⅱコリント 1:9。
  - c. 主イエスは再来する時、結び付ける信仰によって生きている多くの勝利者たちを見いだします。彼はご自身の統治の千年間において、彼らをご自身の王国のための宝と考えます——ルカ 18:8 後半. 啓 20:4, 6。